

# 発災時の 市とまちづくり協議会の 連携について

宝塚市都市安全部総合防災課

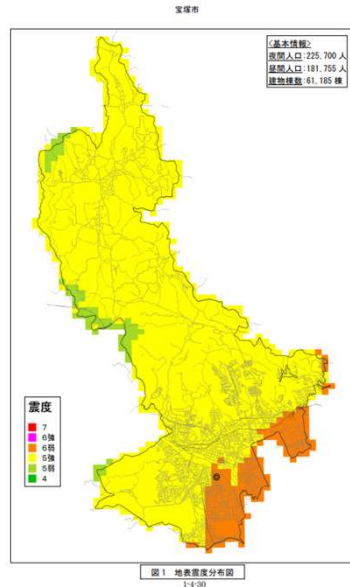
## 宝塚市における地震の想定被害 (南海トラフ地震)

- ・発生確率
  - 10年以内: 30%程度
  - 30年以内: 70~80%程度
  - 50年以内: 90%程度

**※ほぼ確実に発生する**

## 宝塚市における地震の （予）

- ・市内での想定最大震度  
震度6弱
- ・被害想定（兵庫県算出）  
死者：2名  
全壊：63棟  
半壊：1258棟



## 地震発生に備えて



能登地震の避難所の様子

- ・間仕切りは一部
- ・段ボールベッド

**自宅が無事なら、在宅避難**

産経新聞 2024/1/12 記事より

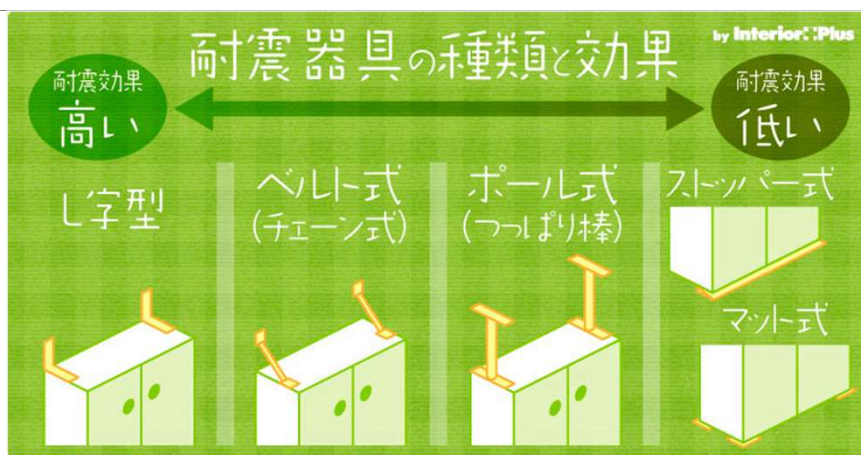
## 地震発生に備えて

・自宅が無事な場合は、避難所には行かず、基本は自宅での在宅避難



- ・在宅避難を想定した、各家庭での備えが大切
  - ・家具の固定、転倒防止
  - ・水、食料、トイレの備蓄

## 家具の固定、転倒防止



## 家庭での備蓄

---

- ・水 ⇒ 一人1日あたり約3リットル必要
- ・食料 ⇒ 一週間分を目安
- ・トイレ ⇒ 一人1日あたり平均5回

## 地震の発生に備えて

---

大地震はいつどこで起こるか予測できない状況です。  
しかも、発生した直後は、みな恐怖で動けない状況  
なので助けてくれる余裕はありません。



自分の命と財産は**自分で**守らなければいけません。

**ご近所同士**の助け合いも有効です。

## 各地域で考えていただきたいこと

・隣近所にどんな人が住んでいるかだけでも、知っておいてもらえればありがたいです。

⇒災害時には、声をかけて皆で逃げる。

・地域のお祭り等の際には、ぜひ各地域での防災の備えを地域内にお住まいの方にお知らせください。

⇒自分の住んでいる地域の危険性や、どこに逃げればいいかを、地域内で共有を。

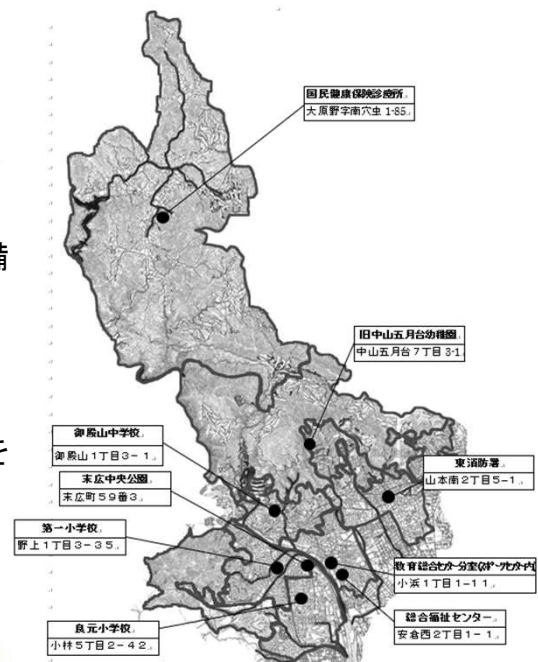
## 市の防災情報

・備蓄倉庫（市内9箇所）

・災害時には、避難所からの要請で、各備蓄倉庫から避難所へ食料等を届けます。

・避難所（市内小中学校）

・災害の種類に応じて、開設する避難所を決めます。



## 市の取り組み

---

- ・出前講座
- ・地域版防災マップ作成の補助
- ・アドバイザー派遣
- ・地区防災計画作成
- ・強化訓練
- ・地区防災計画作成地区への補助金
- ・避難所体験会  
⇒体験会を通じて、現状の課題を抽出し、対策を検討

## 災害時の市の動き

---

- ・災害時には、市では災害対策本部が立ち上がり、道路関係部署職員や、水道局職員は、現地調査に動きます。
- ・避難所開設については、市は2名ずつの職員の配置を予定しています。
- ・避難所への物資の供給等も、市職員が市内の備蓄倉庫から各避難所へ行きます。

## 災害時の市の動き

ただし、市役所職員も半数は市内在住者です。  
皆さんが被災された際は、職員も多くが被災しています。  
早急に出勤できる職員数は限られています。

災害時は、市民全員で協力して助け合わなければなりません。

## 各地域で考えていただきたいこと

- ・避難所が開設された際、ご自身やご家族が無事な場合、避難所運営に協力いただければありがたいです。
- ・避難する際には、隣近所に声をかけながら避難してもらいたいです。

## 最後に

---

いろいろ書きましたが、災害時に一番重要なことは、**自分の命を守る**ということです。

皆さんまちづくり協議会の代表の方ですので、責任感をもって地域のために動いてくださると思います  
が、**ご自身とご家族を最優先**にさせていただきたい  
と思います。